事務局だより

SHIGENKAI 示現会 NO5

2020・9・18

○　委員会・係の仕事
○　研究会報告
○　＜特集　１＞コロナに負けずに
○　＜特集　２＞支部の活動

特集2では、徳島支部の新支部長の紹介、そして各支部の今後の予定です。支部の行事は一般社団法人　示現会の行事でもあります。実施に当たってはコロナ対策をしっかりと取り、安全な行事になるようにしてください。状況によっては内容の変更、又中止にするという判断も大切です。

9月27日の研究会について

9月27日の研究会についてお知らせします。9月は19日（土）より22日まで連休になっております。郵便局は原則として休日、祝日は休止しています。但し祝日、休日においても、速達、書留、ゆうパック（クリックポスト含む。）等の郵便物等は配達を行います。
27日の研究会は19日より受付22日は締め切り日です。
（当日消印有効ではありません。**22日必着**です。ご注意ください。）
参加する方は、そのことを理解いただき対応をお願いします。

２７日の研究会に参加される方は、ホームページ「作品研究会」をご覧いただき、応募要項を確認ください。

研究会報告

4月以降の本部主催の研究会は9月27日で今年度の計画を終了します。
例年の方法とは違いましたので、戸惑うことも多く計画以上に時間がかかりました。特に9月6日の研究会の終了は午後9時を過ぎました。更に参加いただいた皆様に返信する作業があり、解散したのは10時を過ぎていました。講師を含め係全員が時間を忘れ、研究会の内容を少しでも早く、お手元に届け、皆様の制作に役立つようにとの思いを込めての作業でした。
　ただ、このような形での研究会は作者と相対してではありませんので、それぞれにとって満足のいかないところも多々あったと思います。
　特に6日の研究会は内容を撮影する機器の不都合があり、USBでの録音された音声が聞こえなかったという指摘も受けております。
　ご指摘されたことも含め今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。

委員会・係の仕事

示現会の組織の中に委員会があります。委員会は、年に数回開催され、示現会の運営を検討、実行する大切な役割を担います。 委員会は、役員、と委員とが出席します。
　委員は今年3月、2年任期で会員の中から投票によって選ばれました。
委員は、委員会に出席するだけでなく示現会の運営にかかわる仕事それぞれ係となって分担します。
　係の内容は、いろいろありますが、主に展覧会に向けての仕事が中心になります。
　年間を通して仕事をする係としては庶務係があり、皆様に送る郵送物の準備などを行っています。そのほかにも、委員が担当している係がいろいろあります。春の写生会も含め今回のリモート研究会などを担する研修係。宣伝、広報として大事な役目を担うホームページの係、また記録の係のうち、写真の担当者は示現会の行事に関してその都度写真を撮り、記録として残します。この事務局だよりの写真も写真係にいただきました。

　今回、会誌係について紹介します。年度末に「示現会会誌」という小冊子が皆様のもとに送付されます。これは、示現会の機関誌として毎年発行されるもので、皆様よくご存じのことと思います。

会誌係は、この冊子の編集を担当します。内容の検討、原稿依頼、割り付け、校正、印刷所との打ち合わせなど非常に多くの作業が要求される仕事になります　特に今回はコロナ騒動の中なので、さらに大変な作業ということでもあります。
会誌係は宮定理事以下、菱田班長、北島、永江、中西、宮本、森田、山村さん（以上委員）。藤間稔久、中村一夫（会員）さんが担当しております。

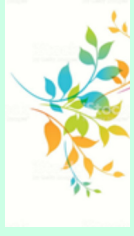
20. 21年度の委員

それぞれ忙しい中、会のために仕事をしてくれています。20年度から新しく山岡、矢部、清水、井上さんが加わりました。

安藤	義雄	北島	裕子	遠山	厚史	松川	伸一	水嶋	靖博
石田	幸嗣	金	正明	中井	悦子	宮本	順子	山岡	健造
梅沢	民雄	倉本	建夫	永江咲紀子		森田	徳美	谷部	伸子
大岩	充子	栗又	功雄	中西	敦	山口	征男	清水	勝二
太田	陽子	武田	采子	中村	昌湖	山村	早苗	井上	明子
河村	豊子	田原	充子	菱田	直美	水上アイ子			

今年の会誌について

春の示現会展を中心に、一年の行事や活動を一冊にまとめ、毎年皆様にお届けしてきた会誌ですが、今年は行事の中止が相次ぎ大変です。事務局のご指導を仰ぎ従来とはかなり構成が変わりました。
七月から九月にかけては例年忙しく、会館での全員集合作業も何回かあります。しかし今年は感染防止の　ため集まれず、可能な部分は分業して連絡を取り合い助け合いつつ進めています　。来年は再びたくさんの笑顔のお写真や受賞や昇格の喜びのお声　など、お伝えできる会誌になると良いのですが。
今後のよりよい紙面づくりのため会誌へのご意見、ご要望を是非係までお寄せ下さい。お待ちいたしております。



会誌係班長
菱田直美

特集1 コロナに負けずに!

猛威を振るうコロナ感染はまだまだおさまりそうもありません。新しい日常という言葉も出てきています。しばらくは我慢をしなければならない状況ですね。
今回は、示現会では皆様よくご存じの方々紹介いたします。そして、もうおひとり、93歳でなお元気に描き続ける熊本の赤木さんが地元の新聞で紹介されました。新聞記事を紹介します。

66歳 定年退職を終えての突然の病魔(白血病)に勝てず天国に旅立った夫。
平成5年友人の誘いで示現会のご縁を頂き25年の年月が流れました。全てを忘れひたすら筆を握る日々、いつのまにか後期高齢者の仲間入りの昨今となりました 。
思いもかけない昨今のコロナ騒ぎ、全ての行事がキャンセルの中、息子、娘がひ孫を描いてと言ってきました。息子の孫は2歳。娘の孫は1歳2ヶ月じっとしていてはくれません。でも私に良い刺激を与えてくれました。昨今はとっぷりと ひ孫とひいばあちゃんの日常にはまり込んでいます。でも心の中では100号のキャンバスに向かいたい、という気持ちが心の中にあります。

石川　阿戸猛子(会員)

モチーフ変更中

かな

秋になると池に通いました。運転免許返還した今、乗り物を乗り継ぎ、鴨を訪ねても相手のあることで近場の城堀へ行ってみることに。当然趣が変わり意欲も湧かず、でもここしかないと、鴨から目を転じると 枯蓮のさまが面白く、これをと思ったのです。今更モチーフ変更なんて、私に時間があるのかとも思います。 気が焦り暗中模索中です。

福岡　篠原裕輔
(会員)

出品作品制作中の図

百日紅の ピンクの花が暑さに負けず満開に咲き誇り、夾竹桃の花も咲き始めました 。蝉しぐれがうるさい程、庭中から降り注いでいます。先日は黒いカゲロウトンボが力尽きて庭先で死んでいました。 信じられないほどの暑さで頭の中も茹で上がっています。それでもアトリエに入って クーラーをつけて絵を描いていると無心になれて幸せな気分になります。いつまで続くかな。…

福井　湯浅迪哉(会員)

戦争体験を絵に

赤木満智子さん(会員)

熊本戦後75年

熊本日日新聞　8月23日

太平洋戦争末期、熊本大空襲など3度の空襲を経験した熊本市北区の赤木満智子さん(93)が、記憶を後世に伝える渾身の油絵を描き上げた。大空襲で家を焼かれ、祖父と叔父を奪われ、夫は焼夷弾で家を焼かれた。作品には「戦争はあってはならない」という強い思いが満ちあふれている。赤々と燃え上がる民家の屋根を、防空頭巾に、もんぺ姿の赤木さんが指さす。隣には消火用のバケツを手にした母と姉。キャンバスに描いたのは1945年7月1日の深夜、熊本大空襲で実際に体験した出来事だ。

自宅があった熊本市の旧大江町は火の海と化し、母、祖母、姉と一緒に逃げ出した。寝たきりの祖父と、病弱だった叔父は連れ出せなかった。夜明けに戻ると、祖父は防空壕の中で、叔父は布団に飛び込んだまま姿で息絶えていた。「祖母は狂ったように泣いた。でも、当時は戦争が憎いとは思わなかった。勝つと信じてましたから」。自分たちで材本を集め、遺体を荼毘に付した。大空襲では熊本市中心部の約2割が被災し、400人近くが命を落とした。(一部省略)

空襲3度 恐怖描き残す
熊本市 赤木満智子さん(93)
肉親、家失った夜 題材に
戦後75年

「恐ろしい体験をした身として平和の大切さを伝えたい」。毎年8月、各地で開かれる集会では記憶を語ってきた。一方、「五十の手習い」で始め、日展洋画団体「示現会」の会員として個展を開くほどの腕前になった。油絵は、風景画や人物画が中心だった。

戦争を題材に描いたのは今回が初めて。体力が衰える中、絵画でも記憶を伝えたいと考えた。次の作品の構想も練っている。「子や孫たちの世代に、怖い思いをさせたくない。納得いくまで表現します」。赤木さんはそう言って絵筆を握り締めた。

(熊本日日新聞　香杵大介)

特集2 各支部の今後の予定

青森支部　写生会　　10月21日(水) 十和田湖奥入瀬渓流
福井支部　支部展・若越美術展〔公募〕　10月17日(日)～25日(日) 鯖江まなべの館
岐阜支部　会員展　　9月15日(火)～10月18日(日)加藤栄三美術館
新潟県支部　支部展　　11月11日(水)～15日(日)長岡美術センター
愛知支部　支部展〔公募〕　　11月24(火)～11月29日(日) 名古屋市市民ギャラリー
　　支部写生会　　10月27日(火)～28日(水)
京都支部　示現会京都展〔公募〕　　9月15日(火)～9月20日(日) 京都市京セラ美術館
　　小品展　　12月1日(火)～12月6日(日) 京都府立文化芸術会館
和歌山支部　支部展・仲間たち展・支部会員展　　12月2日(水)～12月7日(月)和歌山県民ギャラリー
　　支部会員展　　12月2日(水)～12月7日(月)和歌山県民ギャラリー
徳島支部　　写生会　　10月11日(日) 小松島湖かぜ公園 、
久留米支部　支部展　　11月17日(火)～22日(日) 久留米市美術館

徳島支部今日この頃

徳島支部長　　中本森八

この度徳島支部長の大役をお預かりすることになりました。
初代叶精一先生、そして黒崎志郎先生、霜田精奏先生の後をお受けいたしましたが、諸先生方のご苦労を痛感いたしております。
今年度は巡回展の中止。また、支部の諸行事も中止や延期で、支部会員の皆様への諸連絡も十分にできず、計画実施のタイミングに苦慮いたしておりますが、支部展が2月の新型コロナウイルス蔓延の前に開催できたことはなによりよかったと思っています。今年は第51回展を迎え新たな年と位置づけ、油彩100号、水彩では全紙の大作も数多く並び、本展への勉強会も兼ねて展示し、併せて多くの人に鑑賞いただきました。
あっという間に一夏が終わろうとしていますが、徳島支部域においてはお盆が過ぎてから急速な数字でコロナウイルス感染症蔓延の暗雲が広がりをみせ、諸事への集合、行動はますます足止めと言った感じです。
しかしながら、コロナ禍の中、支部会員の方のグループ展が二つも開催され、支部の活動に弾みをいただき、また支部の元気を感じております。
これからの計画としては、支部写生会、本展への作品研究会の開催を予定していますが、感染の状況次第だと思っています。ともあれ連絡を取り合い、74回展に向けて支部会員全員が出品できるよう準備方取り組みたいと思います。
いろいろわからないことばかりですが、事務局を始め各支部の皆様のご指導方どうぞよろしくお願いします。